

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業） 分担研究報告書

C型肝炎最新治療における地域連携

研究分担者 吉澤 要 国立病院機構信州上田医療センター 副院長

研究要旨 近年、C型肝炎治療は急速な進歩を遂げ、インターフェロンあるいは直接作用型抗ウイルス薬（DAA）内服治療で良好な成績を収めている。当院では、ウイルス肝炎治療の均霑化を目指し、肝疾患地域連携診療ネットワークを構築し広報活動も行い、また、地域医療連携室を中心に肝炎相談員を養成し、肝炎相談を行ってきた。この取り組みにより、かかりつけ医からの紹介患者が年々増加し、それが最新治療に結びついていることが証明され、当初の目的である、肝炎治療の均霑化が達成されつつある。

A．研究背景・目的

平成20年から、ウイルス肝炎治療の均霑化を目指した厚生労働省肝炎総合対策「肝炎治療7か年計画」が実施されている。当院は平成22年から、肝疾患地域連携診療ネットワークを構築し、肝炎パスを使用し病診連携を推進してきた。また、地域医師会講演会、市民講座、メディアを通じた積極的な広報活動も行っている。さらに地域医療連携室を中心に肝炎相談員を養成し、相談を行ってきた。近年、C型肝炎治療は急速な進歩を遂げ、インターフェロンあるいは直接作用型抗ウイルス薬（DAA）内服治療で良好な成績を収めている。当院でのC型肝炎最新治療における地域連携の現状を評価することを目的とした。

B．研究方法

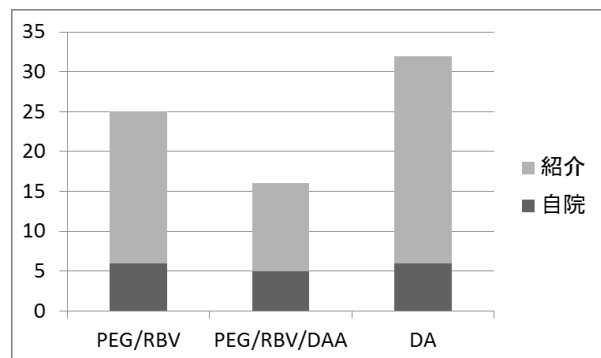
C型肝炎治療として、

Peg-IFN + RBV 2010-15 1b 5例、2a/b 20例
Peg-IFN + RBV + TLV 2012-13 7例
Peg-IFN + RBV + SMV 2013-15 9例
経口DAA 2剤 ダクラタスビル + アスナプレビル 2014-15 32例

上記治療患者における病診連携を介した紹介率、紹介患者の実態を解析した。

C．研究結果

Peg-IFN + RBVは5年間の治療25人中19人76.0%が連携を介した紹介患者であった。Peg-IFN + RBV + DAAは4年間で16人治療し、11人68.8%が紹介であり、DAA 2剤(DA)治療では2014-15年1年間に32人治療し、そのうち26人81.3%が連携からの紹介であった。



各治療別の平均年齢はPeg-IFN + RBV 48.3歳、Peg-IFN + RBV + DAA 55.9歳であるのに対してDAA 2剤では68.8歳と高齢であった。年齢構成も70歳以上が60%以上を占めていた。治療成績は非常に良好であった。

D . 考察

肝疾患地域連携を開始して5年、治療の進歩がすばやくかかりつけ医にも理解され、紹介患者が増加している。さらにDAA経口2剤の登場は、明らかに今まで紹介のなかった高齢患者を掘り起こし、それが最新治療に結びついている。

E . 結論

かかりつけ医との肝炎パスを介した連携や地域医師会講演会がかかりつけ医からの紹介を増やし、市民講座、メディアを通じた積極的な広報活動や地域医療連携室を中心とした患者相談などが患者の意識を高め、C型肝炎最新治療の均霑化に貢献している。

F . 研究発表

1 . 論文発表

- 1) Migita K, Komori A, Kozuru H, Jiuchi Y, Nakamura M, Yasunami M, Furukawa H, Abiru S, Yamasaki K, Nagaoka S, Hashimoto S, Bekki S, Kamitsukasa H, Nakamura Y, Ohta H, Shimada M, Takahashi H, Mita E, Hijioka T, Yamashita H, Kouno H, Nakamuta M, Ario K, Muro T, Sakai H, Sugi K, Nishimura H, Yoshizawa K, Sato T, Naganuma A, Komatsu T, Oohara Y, Makita F, Tomizawa M, Yatsushashi H. Circulating microRNA Profiles in Patients with Type-1 Autoimmune Hepatitis. PLoS One. 2015 Nov 17;10(11):e0136908
- 2) Migita K, Jiuchi Y, Furukawa H, Nakamura M, Komori A, Yasunami M, Kozuru H, Abiru S, Yamasaki K, Nagaoka S, Hashimoto S, Bekki S, Yoshizawa K, Shimada M, Kouno H, Kamitsukasa H, Komatsu T, Hijioka T, Nakamuta M, Naganuma A, Yamashita H, Nishimura H, Ohta H, Nakamura Y, Ario K, Oohara Y,

Sugi K, Tomizawa M, Sato T, Takahashi H, Muro T, Makita F, Mita E, Sakai H, Yatsushashi H. Lack of association between the CARD10 rs6000782 polymorphism and type 1 autoimmune hepatitis in a Japanese population. BMC Res Notes. 2015 Dec 12;8(1):777.

3) 森田 進, 吉澤 要, 内山夏紀, 藤森一也, 滋野 俊, 岡本宏明. 同一地区内で発症した遺伝子配列の異なるE型肝炎ウイルス株による急性肝炎の2例. 肝臓 2015; 56: 625-27.

2 . 学会発表

- 1) 吉澤 要, 森田 進, 藤森一也, 滋野 俊, 手島優子, 上原静枝, 遠山千絵美, 牛山祐子, 田中清美. 肝疾患診療における地域中核病院の役割とクリニカルパスを用いた病診連携. 第65回日本病院学会. 軽井沢 2015.6.19
- 2) 吉澤 要, 森田 進, 大野和幸, 福澤慎哉, 藤森一也, 滋野 俊, 手島優子, 上原静江, 遠山千絵美, 牛山祐子, 田中清美. C型肝炎最新治療における地域連携. 第69回国立病院総合医学会. 札幌 2015.10.2

G . 知的財産権の出願・登録状況

なし。